

# 獣 医 疫 学 会

1 学会名：獣医疫学会  
(The Japan Society of Veterinary Epidemiology)

2 事務所所在地：  
獣医疫学会事務局  
〒305-0856 茨城県つくば市観音台3-1-5  
(独農研機構動物衛生研究所  
ウイルス・疫学研究領域内)  
TEL 029-838-7829, 7769  
FAX 029-838-7769  
E-mail info@vet-epidemiol.jp  
URL http://www.vet-epidemiol.jp/

3 目的：  
疫学は19世紀中頃、英国において伝染病予防を目的として誕生したが、その目的は時代とともに変遷し、多様化している。近年では、動物生産の超効率化と生命倫理・生産物の安全性・環境保全等の相互バランスの問題、土地開発に伴う野生動物遺伝資源の絶滅と人畜共通感染症と中心としたemerging diseaseの出現の問題等々が、社会的にも重要視されるようになった。これらの諸問題はいずれも生物集団と環境の総合的、生態学的理解があつてはじめてアプローチが可能であり、疫学を抜きにしての解決は図り得ないと思われる。  
そこで獣医疫学会は、獣医学とその関連領域における獣医疫学の研究・教育の進展と普及を目指し、1997年に発足した。

4 組織：  
会 長 山本茂貴 (国立医薬品食品衛生研究所)  
副 会 長 額額雄三 (明治大学)  
理 事 16名  
幹 事 13名  
評 議 員 15名  
会員総数 393名 (平成24年2月現在)

5 沿革：  
1977年：前々身である獣医統計利用研究会が発足  
1986年：前身である獣医情報科学研究会へ移行  
1997年：獣医疫学会へ移行 (1期2年)  
2011年：第8期の活動開始  
現在に至る

日獣会誌 65 417 (2012)

6 活動内容と特色：  
会の発足からこれまでの間に、32回の学術集会を開催した。内容については上記ホームページに「学術集会アーカイブ」を掲載しているが、いずれも獣医学界のみならず社会的にも関心の高い題材に関するシンポジウムや教育講演を心がけて実施している。また、学術集会では会員の研究成果の発表の場として、一般演題の時間も設けている。

機関誌としては「獣医疫学雑誌」を年2回発行し、会員の調査・研究成果の発表、交流の場を提供している。なお、掲載された記事のうち、原著論文、総説、資料・解説等については、獣医疫学の更なる普及を目指す観点から、(独)科学技術振興機構が運営する「科学技術情報発信・流通総合システム」(J-STAGE)にて、発行から半年後を目処に全文検索ができるようになっている。

その他会員サービスの一環として、メールマガジン「獣医疫学情報」を年間200通程度配信し、獣医疫学に関する情報発信をするとともに、会員から疫学に関する相談等も随時受け付けている。

また、我が国の獣医疫学教育を取り巻く状況の変化としては、近年中に新たに始まる「獣医学教育モデル・コア・カリキュラム」(コアカリ)において、疫学が必須科目になることが挙げられる。そこで、当会から既刊の「獣医疫学—基礎から応用まで—」をコアカリに沿う形に大幅改訂し、2011年12月に本書の第二版を上梓した (ISBN978-4-87402-179-8, 写真)。初版も既に5つの大学で教科書として採用されてきたが、第二版は「コアカリ準拠教科書の第一号」に認定されたこともあり、その他の獣医系大学でも活用されることが期待されている。また本書では、既に社会で活躍中の獣医師またその関係者にとっても、現場で役立つ事例紹介が数多く掲載されているのも大きな特徴である。

獣医疫学に興味をお持ちの方は、是非ホームページをご覧くださいとともに、入会希望の方は、上記事務局アドレスまで気軽にご連絡いただきたい。

7 文責者：小林創太 (獣医疫学会事務局)



獣医疫学  
—基礎から応用まで—  
(第二版)

お問い合わせは獣医疫学会事務局まで